ぴっぴだより

No.10 2016.12.16

「個性を尊重する」「個性を伸ばす」というフレーズはよく耳にします。そしてそれは決して耳障りな言葉ではなく、どちらかというと聞き心地のよい言葉です。しかしながら、本当に徹底的に個性を尊重し、個性を伸ばすことはとても難しいことではないでしょうか。家族や日常的に関わっている人のそれならなおさらです。少なくとも僕にとってそれは、とても勇気と覚悟のいることです。それぞれの人が受け入れることのできる個性は、ある一定の幅、許容範囲があるような気がするのです。そして、ある人の個性がその幅を越えた時、僕らはその個性を「困ったもの」として感じ、その個性をこちら側の許容範囲の中に押し込めようとはしないでしょうか。「個性を尊重する」「個性を伸ばす」というフレーズには、「わたしの常識の範囲内で」という注釈が見え隠れするように感じています。

ハコフグの帽子を被った「さかなクン」をご存じの方は多いと思います。TV チャンピオンの全国魚通選手権に高校生の時に出場したことをきっかけに有名になったお魚博士です。中学時代に素人としては日本初のカブトガニの人工ふ化に成功したり、絶滅したと思われていたクニマスの発見に深く関わったりと立派な業績もあります。しかし、初めて彼をテレビを通じて見た時、僕は彼を、彼の個性を容易に受け入れることはできませんでした。その風貌、声、テンション、キャラクター…。そのすべてが、僕が受け入れられる範囲を越えていました。しかし、あるきかっけで彼が書いた自叙伝「さかなクンの一魚一会」（講談社、2016）を読んだことで、「個性を伸ばす」ということの理解が変わり、彼の個性を受けとめられそうな気がしました。さかなクンは小さい頃から魚が大好きで、いつも魚の絵を描いていたそうです。小さな頃から描いた魚の絵を通じて友達とつながり、魚を見るために魚屋さんや水族館の大人と親しくなり、魚の剥製・魚新聞の制作など、魚を通じてたくさんの人との関係を築き、拡げ、深めていったことが書かれていました。（さかなクンのお母さんの姿がすばらしいのですが、長くなるのでここでは割愛します。）社会人となった彼は、魚に関するいろいろな仕事をしたけれども、ことごとく失敗し、どれもこれも長続きしない。TV チャンピオンの出場を通じて知り合ったお寿司屋さんで働くことになったけれども、そこでも同じように失敗を繰り返す。しかし、休憩時間に魚の絵を描き続けていた様子を見ていたそのお寿司屋さんのご主人から、店の壁に魚の絵を描くことを依頼され、彼の人生は大きく変わっていきました。店の壁に描いた魚の絵をたくさんの人に見てもらい、喜んでもらい、「うちの店にも描いて！」と依頼され、彼は魚の絵を描くことを生業としていったのだそうです。

さかなクンの幼少期からこれまでの生き方を知り、「個性を伸ばす」というのは２つの方向性を持つものとして僕の理解は変わりました。僕の中では長い間、「個性を伸ばす」というのは内面的な方向性だけをイメージしていました。個性が内に向かうだけでは、その世界は閉じたものとなり、生きていく上で不自由さが伴ってきます。個性が内に閉じた人と長く共に過ごすのは、相当の勇気と覚悟がいると思うのです。しかし、さかなクンがそうであったように、伸びていく個性がどんどん内（自分自身）に向かうことを大人がしっかり支え、それと同時に、その個性が一回転して外（社会）につながるように大人が関わっていくことの大切さを実感しました。あふれる個性のエネルギーを自分と社会の２つの方向に伸びるように関わる。それが保育や教育の大事な役割だと思うようになりました。

ぽろぴっぴの高学年に虫博士がいます。みんなで何かに取り組んでいても、近くに虫が飛んでいたりすると「あ、アオスジアゲハだ。」と気持ちはそちらに移り、「この蝶はね…」とその虫についての解説が始まります。「おいおい、今は別なことをしている時間なんだけど…」と訝しく思うわけですが、そんな虫博士の個性の受けとめ方が僕の中で変化した出来事がつい最近ありました。ある日のぽろぴっぴの高学年のおはようミーティングで、五味太郎さんの「みんながおしえてくれました」（絵本館、１９８３）を読んだ時のことです。読み終わった後に「動物や虫、魚、植物など人間以外の命あるものに教えてもらったことってどんなこと？」と投げかけました。すると真っ先にその虫博士が手を挙げ、「虫から、人間はいろいろだってことを教えてもらった。同じ種類の虫でもいろいろいる。人間も多様性があるんだってことがわかった。」　その言葉を聞いて、虫を通じてしっかり人間というものを見つめ、社会とつながっていこうとしていることがわかり、そこを理解した上で虫博士と関わっていこうと思いました。

ぴっぴは「あるがまま」を大切にしています。そしてそれは、いろいろな個性が思う存分発揮されること、そして発揮された個性がたしかに社会で受けとめられること。この両立が「あるがまま」のベースにあるのではないでしょうか。「一人ひとり」と「みんな」が共に大切にされるぴっぴであり続けたいと思います。どうぞよいお年をお迎えください。来年もどうぞよろしくお願いいたします。

慎之介

おおきいくみだより

12月最初の日は木曜日。この日からくり・おおくりはオペレッタを始めました。明けた月曜日。私がくり・おおくりと朝の会でオペレッタの歌の練習をすることになりました。この日は朝から濃い霧が立ち込めて、ぴっぴの森もどんよりジメジメした朝。けれども絵本を読んでいる途中から日が差してきて急に青空が広がり始めると、子どもたちもなんだかソワソワ。早くも体を動かして遊び出したいようです。「オペレッタの歌を歌おう。」と言うと「えーっ！遊びたいー！」と声が上がります。この日差しだものなあと思いつつも、何とか子どもたちを歌へと誘います。全部歌うのは難しそうなので、歌いやすそうな、はじまりの歌や魔法使いの歌など数曲歌いますが、子どもたちは気が乗らない様子で口があまり開いていません。動いてすらいない人もチラホラ。颯希ちゃんの目がどんどん虚ろになって行くのが分かります。「この歌で終わりにしようかなー。」と終わりを示唆してみても、みんなの声は、更に小さくなって行くばかり…。このまま終わりにするのは嫌だなあと「みんな、全然声出てないし、お口も開いてないね。最後にもう一回だけ『はじまりの歌』歌って、それで終わりにしよう！」と言うと、鋭い武蔵くんから「それじゃあ、嘘じゃん！」と突っ込まれてしまいました。「う、嘘じゃないもん。かな～？って言っただけだもん。」と私の無理やりな言い訳に、くりさん・おおくりさん、半ば自棄になって大きな声で歌い出しました。三拍子の優雅な感じの歌なのですが…。

まつぼっくりさんは同じ時、美禎さんと初めて「しんせつなともだち」の劇ごっこをしていました。朝の集まりの場所からまだ賑やかな声が聞こえています。あまり近くでは遊ばないようにお願いし、くり・おおくりさんは歌の練習を終了。ああ、まだ私には他のスタッフのように子どもたちの気持ちに沿いながら、一緒に楽しんで進めていくことは難しいなあ…と少し落ち込む。が、お帰りの片付けの時、空太くんが「アーブラカダブラバビブベボー♪」と歌いながらなわとびを探していました。それだけでもう（ヨッシ！）と心の中でこぶしを握っている現金な私です。

また次の木曜日は片付けを早めて、帰りの時間に、くり・おおくりは駐車場でオペレッタ。まつぼっくりは朝の集まりの場所で劇ごっこです。あまり離れてはいないので、お互いの声はよく聞こえているのだけれど、それぞれに夢中になっているようで注意をそがれることがありません。くり・おおくりの人たちも、先日の歌の練習がウソのように歌に合わせて体を動かし真剣に演じています。まつぼっくりさんもそれぞれの役を楽しんでいる様子。切り株に渡した板をベットに、ロバさんになってビシッと寝ている植木さくらちゃん。他の人が劇の進みについ起き上がって眺めてしまっていても、しっかりと『寝て』います。くり・おおくりまつぼっくり共に降園時間ぎりぎりまでそれぞれの世界に入り込んでいました。そこへ、お迎えの車が一台入って来ました。葉っぱが落ちて見通しの良くなったぴっぴの森。いつもなら誰かしら「あ、！」と気づくはずですが、この日は誰も気づくことはありません。　スルスルと静かにバックして行って下さる保護者の方。お心遣いが嬉しいワンシーンでした。（律子）

二学期のエピソード

- 敬称略
- およそ日にち順

(又)スタッフ
(大く)おおくり
(く)くり
(松)まつぼっくり
(ど)どんぐり

(武)武蔵　(蒼)蒼空　(遥)遥人　(真)真寛
(な)なつめ　(櫂)大櫂　(礼)礼　(ウ)ウィリアム
(空)空太　(果)果乃　(颯)颯希　(立)立
(琳)琳賀　(咲)咲美　(天)天音　(羽)羽路斗
(碧)碧空　(い)いろは　(晴)晴基　(穂)穂岳
(橙)橙李　(夢)大夢　(悦)悦己　(奏)奏人
(植)植木さくら　(永)真永　(澄)澄怜　(英)英志
(翔)翔太郎　(玄)玄太　(折)折原さくら　(渚)渚
(友)友佳梨　(沙)沙季

- 一学期末日．朝の集まりで今日が夏休み前最後のぴっぴだということや劇やオペレッタをお母さん達に見せる？という話を(又)がすると(奏)がパッと後ろの席の(大く)(く)遥を振り返り．(奏)「見たい？」(遥)「見たい！」と返答してもらってにっこり．(夢)も(又)に「お母さん達びっくりするだろうね～！」(松)さんたちが今まで劇やオペレッタを大きい人たちに見せてもらって，どんなにか楽しみにしたり．憧れたり…とうとう自分達が演じる番だぞ！という嬉しさが伝わってきました．

- 「鬼ごっこやろう！」と仲間を集めていた(空)．何人かが「やる～！」「入れて～！」と集まってきました．(礼)に「鬼やってくれない？」と頼む(空)．(礼)「えー逃げる人になりたいからやだ．空太くんがやればいいじゃない」(空)「ぼくだって逃げたいんだよ．こないだあげたカード．もうひとつあげるからやって」(礼)「えーやだ」(空)「もうこんなに仲良く遊んであげなくなっちゃうかもしれないよ，やってくれないと」(礼)「やだ！」しばし問答の末「じゃあ鬼ごっこやめて犬ごっこにしよう」と集まった人みんなで犬ごっこを始めました．話し合いの末に互いの気持ちを尊重してその遊びをやらないという選択肢もあるのですね．

- 二学期初日の朝．(礼)「なんか緊張する…」

- (空)のお誕生日祝いの朝の集まり．(琳)「ぼくも赤ちゃんだったんだ」「ぼくはまだ4歳なの」と隣りに座っていた(又)に伝えている．

- 夏休み中に言葉が増えた(永)「パパと海行ったの」と教えてくれ，重なって取れなくなったバケツを手に(永)「取れなーい」と(天)に訴えています．(天)「どれがいい？」(永)「あか」なかなか取れないのを(琳)が手伝ってくれて赤いバケツを「はい」と手渡されると(永)「ありがとう」

- (友)が海賊船の所にあがって訴え泣き．そばにいた(櫂)が(友)の頭をなでてあげ．(玄)がそばに寄って手を貸して降りるのを手伝っていました．

- 朝の集まりの名前呼びの時．(ど)→(松)→(く)の順に呼んでいました．(又)「ではつぎにくりさん．空太くん！」(空)「あっ．あのう…ち…」と言って照れ笑いのような表情．(又)「わかった！5歳になったからおおくりさんと言いたかったのね」(空)「うん！」と笑っている．(又)「くりさんのみんなが5歳になったら．おおくりさんで呼ぶから．待っててくれる？」(空)「わかった！」と大きくうなづきました．

- プンプンと怒っているような姿が何回もある(友)．その度に(羽)「どうしたの？」とのぞきこんで声をかけ．(晴)は手をつないで(友)の言い分を(又)に伝えに来ます．すべり台で(羽)がやろうとしている所に来て．(友)「やりたい」と訴え(羽)「あぶないよ．大丈夫？」(友)「もおっ！」と怒り森へ走り去りました．でもすぐもどって来て．手伝ってもらって滑ると笑顔．楽しそうと思う所に顔を出しては(友)「やりたい！」出来ないと(友)「もおっ！」と立ち去るをくり返し．周りの人達はその姿に苦笑い．(羽)「困っちゃうんだよ～」と言いながらも放っておけない感じだし．(晴)も優しい口調で話しかけています．

- (澄)が上手に泥を丸め(澄)「お店屋さん！作ってるんだ～」そこに(沙)がやってきて(沙)「何してるの？」と足元にあったボールを手にすると(澄)「だめ!!あれの!!」すると(沙)「じゃあどれ使っていいの？」(澄)が棚を指すと．(沙)「あーこれねー」

- 朝．数日休んでいた(永)が遊んでいました．登園してきた(果)が「まなちゃん．熱さがってよかった…」と一人言のようにつぶやいていました．

- (ど)が汽車になって初えりんこ体操へ出発．それを大きい人達が「行ってらっしゃー!!」と見送っています．えりんこが終って(ど)を迎えに行くと．(英)「英司ね．クマさんになったの!!」と興奮して報告．(渚)も「なーちゃんはウサギさん！」とうさぎになって跳ねながら進んで来ました．それぞれに初えりんこを満喫した様子でした．

- 琳がくり・おねぐり ターブ前の大きな水たまりで 泥をスコップでタライに入れていると 1m程離れた所でじっと見つめている友. 琳に何か話しかけています. 琳はいろいろと友に説明している様で「ここにもあるよ!」と声が聞こえ. 琳は泥から何か取り出して見せています. 友がそれを見て. また琳に質問. 友が琳の作業見ながら. 二人で言葉を交しているのが印象的でした.

- 祈「悦く〜ん! 待って!」と悦を追いかけています. 慌てるように立ち止まって祈を待つ悦. おもちゃ置き場のテーブルで2人で遊んでいました. いつもいる人. 遊んでいる人がいないと (この時はえりんこ体操で◎天◎が不在) いつもと違う関係が生まれておもしろい.

- 切り株と板でデコボココースが出来て. 朝から◎松たちは. 走って回ったり. 蕾は不安定な板の上で何度もジャンプ! それをじっと見ていた永と沙. 大きい人達がいなくなると. 四つんばいでやり始めた永. 何とも慎重に少しづつ前へ. 沙は立てる所は立ち. 少々グラグラする所は四つんばい. 最後の急坂はお尻ですーっと滑り降り. 「できた!」と満面の笑顔. 永は. 3倍位時間をかけ. 「できた!」と笑顔. 2人で笑い合いながら3回程じっくり楽しんでいました. 少々危いかな? とはらはら見ていましたが自分のペースで楽しむ豆遥に感心しました.

- ランチ時. 祈がじゃがいもを「いや!」と出していたら. 隣りの果「私たちが頂ってきたじゃがいも「なのに悲しい」編「私たちのじゃがいも 食べてごらんよ. おいしいよ!」しばらくして意を決した祈がフォークに刺してパクッ! 2人が「食べられた!」と指さ. 結局 3切れ みんな食べられました!

- 朝の集まりで オスの子羊の「麦」が死んでしまったことを話しました. じっと静かに聞いている子どもたち. 集りのあとも一日中 何人かが「どうして死んじゃったんだろう」とわこさんに聞いています. 咲「麦ちゃん 倒れていた時. わこさん びっくりした? ピーポー呼んだの? 羊のピーポーがあったら治ったかもしれないね」咲「土の中に埋めたの? 体に土をかけたの? 顔にも?」と埋葬の様子を聞きたがります. 空も一緒に聞き. 「土の中って冷たいのかな. 雨の日は土の中はぬれちゃうのかな」咲「体は土の中にあるけど麦ちゃんの心は天国へ行けるといいね」空「天国に行けますようにって. 今度お墓に言おうね」帰りにヨモギをたくさん摘んで「麦ちゃんにあげたね」と言ってくれた咲. 畑で穂とヨモギやクローバーを摘んでは. 羊たちにあげていました.

- 今日 何度かぶつかっては涙になっていた羽悦蕾天の◎松たち. 羽と悦が涙になった時は. 蕾が「はるぴんがえっくんを押しちゃったんだよ」と説明. 帰りの集まりでも悦「大変. あまちゃんとはるぴんがバンバンってぶっちゃって泣いちゃってる」聞けば「羽が蕾のために隣りの切り株を取っておいたのに. 天がそこに座っちゃってけんかになった」 どの場面でもお互いに理由や気持ちがあり. 気持ちをひっこめられずにいます. 帰りの集まりで. ◎「どうすればよかったんだろうね」麦「はるぴんがここはひろむくんに座ってもらいたいのってお口で言えばいい」悦「あまちゃんもここに座りたいのってお口で言えばいい」穂「たたいたら. やめて! って言えばいい」というような意見が出て羽に◎「天に何かお口で言えそう?」まだ首を振る羽. 植「じゃあ 待ってあげよう!」

- お散歩へ. 山道を歩き出すと植悦天の3人は歌いながら手をつないで歩いています. 崖登りを始めたたくこんの人を見て友も登り出しましたが転んで涙に. でもいつのまにか上の方にいて. 出発のスズがなると. 友は. おしりでズルズルーと下りてきて「友登れたよ! だからこんなになっちゃったー!」といつもは嫌がる泥だらけの手を嬉しそうに見せてくれました. 羽は歩きながら友の頭からずり落ちそうになっている帽子を黙って一生懸命被せ直してあげていました. 羽は直すと何ごともなかったかのように歩いていました.
お散歩が終わりに近い頃 碧「お散歩 楽しかったね」と伝えに来てくれました.

- 朝の集まりで 大好きな碧にまとわりつく紬. 碧「さく! 痛いからやめて!」ときっぱり. 紬を離れて碧「まゆさんのとなりに行こう」と座りなおしていました.

- 崖登り. 英が登りきると. 先に頂上にいた咲「えいじー のぼれたね!」と声をかけ. 英も満足そう. 黙々と登ってきたのは永. 途中までは澄◎が一緒でしたが澄が断念し. 一人で. あきらめず たっぷり時間をかけての挑戦. 頂上で手を貸したほうがよいと思い◎「實. 手を貸してあげて」實「もうちょっとだよ」と永に言うと永「いらない!」「どうして!」ときっぱり拒否. 登りきった時の表情は. きりっとしていました.

- ここのところぴっぴに行き渋ることが多い豆. この日は. リュックをしょって ゆっくり一人で歩いて来ました. 一瞬立ち止まり こちらを見ています. 豆たちと迷路をしていた◎「おはよう! 豆が作ってくれた迷路を豆たちが喜んでいるよ. でも危ないところもあるので見てくれる?」豆はすたすたと近づいてきました. ◎「リュックを置いてからようしく」豆「わかった!」すぐにやって来て自身で歩きながら試しているようです. 豆たちの動きを見ながら板を直していました.

- オムツ替えをしようと 渚 祈 を 探しても なかなか見つかりません。物置きの真ん中の部屋で 渚 祈 友 は おうちごっこをしていました。ホウキを持っていき。ゆ たちだけで 楽しそうに遊んでいます。オムツ替えをしながら。友「お母さんは ゆかりちゃん」祈「違う。わたし！」渚「えーなーちゃんだよ」設定まであった様子。

- 清里キャンプ
  - 導入一日目。絵本「まんげつのよるまで まちなさい」を読み終えると。遥「満月に赤ちゃん生まれるんだよ」清里も 赤ちゃん誕生も楽しみな様子。果「かのちゃん産 ぶ さとに行くんだよ！」（清里ですね）
  - 導入五日目。蒼「清里で オリオン見られるかなあ」又「広い空だから お天気よかったらきっと見られるよ。星の本を持って来てくれる？」蒼「いいよ！」次の日。星の本を持って来てくれて 蒼「これを 持っていこうと思う」
  - 導入七日目 登園してくるなり。「あと一日寝たら、だよね」と何人もが声をかけてくる。集まりで 又「困っていることある？」武「お母さんも おじいちゃんも一緒に行きたいって言ってる」礼「礼くんたちも 言ってる」蒼「お母さんがいいなあ。行きたいなあって言ってる」
  - 帰りの合同の集まりで く 大く が「行ってきます。お留守番 よろしくお願いします」を伝えました。檀 は「檀も一緒に行く！」と大泣き。
  - 追分駅。すばらしいお天気。蒼 は手づくりの「ジャージー牛トラクター」（チーム名）と描かれた旗を持参。蒼「これ 持って歩めるんだあ」ハトバスのガイドさんのように振って見せてくれました。咲 は。手づくりの双眼鏡を持ってきました。電車の中で。双眼鏡で外の景色を楽しんでいました。それぞれのやり方で ふくらませた思いを形にしているのが嬉しい。そして 欠席者なく。全員揃って 出発！ 本当に嬉しい!!
  - 清里駅から自然学校までの登り坂。目の前は ハッ岳連峰。歩き始めてすぐに ひっくり返る 咲 白。道路でひっくり返った人は初めてでした。白「こんな荷物がなかったらさ～もっとさ～はやいのに～。いつもさ～ 走ってぬかしちゃうのにさ～。これさ～ 関太がさ～ ぽろぴっぴのやつだからさ～ 重いしさ～」とぶつぶつ言っている。
    礼「まちがって 大きなくまさん（ぬいぐるみ）持ってきちゃった。重いよ～。小さいくまさんにすればよかった」咲「おい。自然学校どこだ！」白が前に行くと。林 咲 は。ハイハイしている。車で通り過ぎた方が笑っていました。
    實 武 蒼 遥 の超スローペースの歩きに 空 が小走りで必死についてきます。そのあとも ウ
    檀 果 ががんばっています。
  - 自然学校探検。「エレベーターは必要な人のためにあります」のお話を覚えていた 檀。エレベーターの前に来た時。檀「乗っていい？ 必要な時です」
  - ヘイライド（大きなトラクター）に乗って牧場を一周。富士山・南アルプス・八ヶ岳が美しい。ダチョウもお出迎え。ヘイライドの一番前に座り。自然学校や牧場の又 と話し続ける 鳳。又「牛は120頭いるよ」鳳「うちは0だよ」又「じゃあ 連れて帰る？」鳳「いやだあ」…… どこでも。ぴっぴの外交官です。
  - チーム毎の寝る部屋に分かれての荷物整理。ゆ が實たちの部屋に来て「きれ～。うち。超ぐしゃぐしゃ…」と苦笑い。
  - 夕食の片付け。武 が 大皿などを片付けたり。テーブルを拭いたり率先して片付けている。それを見て。何人かが片付けに加わっていた。
    鳳 ゆ は。2人でこそこそ話し笑い合っている。ゆ が一人で歩き出し。厨房にいる若い男性 又 に「何という名前ですか」と声をかけ。次に 鳳 が行き。もう一人の若い男性 又 に名前を聞き。友達になっていました。
  - 夜のお散歩。入浴のあと。就寝。ゆ「ママ。夜は歌ってくれるの。愛子さん 何か歌って！」愛 が「上を向いて歩こう」を歌うと ゆ「何それ。知らない」と不評。
  - 朝食をいただきながら 礼「ここの給食 おいしいね。来て良かった～。本当は来たくなかったんだけど…… お母さんと離れたくなかったから……」 鳳 な は。厨房スタッフの方達と楽しそうにおしゃべりしています。
  - 往きも帰りも 臼田駅で 蒼 のおばあちゃんが 待ち伏せしてくれています。みんな大喜びで手を振っています。帰りは。何と！ 横断幕も!! 「おかえりくりさん。おかえりなさい」と書かれてありました。（次の日。「くりさんもでしたね。すみません」と言われました。）

- 坂道で遊んでいる時。ふと 遥「ここ。登ってみたい」とやぶの崖に入って行く。少し後で 武 も来た。2人は木を揺らし。その後に来た 實 に位置を伝えている。武「ここは土のにおいがするね～」確かに 踏み固められていない柔らかな土ににおいが濃い。
  遥「ここ。冬にそりすべりできるかな～」いつもの崖でそりすべりできないことをわかっているんだなあ。先に進んでいる 武 實 に「ほらと。早くこいよ！」と言われると 遥「待って。道をつけないと そりができないよ」と細かな木を折って 草を踏み。ゆっくり進んでいました。午後もまた登り。杉 も何人かチャレンジしていました。

・もみじ谷の崖登り。(な)が一番に登って行く。それを見ていた(ち)「登りたい」と(な)の後をつかて、どんどん登っていく。そして頂上へ。(ち)「初めて登った！一番上まで行けた！」崖の下で追かけっこをしていた(悦)(植)(朔)。(悦)「えっくんの後ついてきて！」と言って崖へ。(植)は顔をこわばらせて必死で登っている。(朔)は興奮状態で登り始めたがすぐに登れなくなり、でもそこでみんなが登るのを見ながらまどろんでいました。

・(ウ)の最終日。たくさんのビニールテープを貼った自作の「剣」の木の棒が入ったダンボール箱を持参した。家に持ち帰った大切な剣を貯めてとっておいたものを(ウ)「野沢温泉にひっこすからみんなにあげる」そうで朝の会で前に立ち(ウ)「だいじに使ってね」と笑顔で話しました。その大切な剣を手に「ウリアルにもらったんだー」と戦いごっこの(奏)と(穂)と(玄)。(ウ)も嬉しそうでした。

・(天)(遥)(い)の病院ごっこ。(ス)に「病院に来て！」そこにいた(ち)「オレ、イヌワシのお兄ちゃんになる！」とごっこに加わる。そこにタイミングよく、なぜか救急車になった(玄)が「ピーポーピーポー」とやってきた。(ス)「救急車さん、病院へ連れていって」と話すと、(玄)は(ち)の手を腕にまわして救急車になりきって満足そう。(ち)もいい表情でした。

・朝の集まり後、ケヤキ伐り材料を探しに(澄)(友)(渚)(玄)(檀)(英)は各々カゴを持って歩き出しました。(沙)に(友)「いっしょに行こう」(沙)「行かない！」それでも2歩ほど歩いて(友)「いっしょに行こう」(沙)「行かない！」…何回もくり返して、遅れてやってきた(友)。みんなのカゴはクヌギのまん丸いどんぐり、クヌギの帽子、硬い黄色いナラの葉であっという間にいっぱいになりました。各々拾ってきたものをテーブルの上に出したり、大きな丸いアミの上で焼いたり…ごっこが始まりました。(渚)「渚はこれ、ムカデさんのおつやげにするの」と自分のカゴをバッグの所に置きに行きました。(永)も「入れて」と入ってきました。大きなオケを(英)「お風呂にしようか」とよいしょへと運んでいます。重そうです。(英)「そうだ！」とオケを横にし、ゴロゴロと運び始めました。簡単に運んでいます。(英)「見て～こっちの方が運べる！」交替でお風呂に入っている楽しそうな様子に、(沙)「どんぐり拾ってくる」と言いに来ました。ショイコを背負って、その中に落ち葉をいっぱい入れた(碧)も加わりました。(碧)「ベッドだ！！」と大きな石に横になり寝ています。(檀)も同じことがしたくて寝ようとします。(碧)がたたくまねをしながらキーッと怒っています。(ス)「教えてあげて」(碧)「ここはぼくのベッドだよ、乗らないで」(檀)もすんなりやめて、待っていました。

・平尾山への山登り。常に先頭集団は(武)(蒼)(遥)(貫)(樓)(羽)(い)。(樓)(羽)(い)も余裕で登っています。10分程歩くと、かなりの差ができた。後の人達を待ちます。座りこんで、みんなでしりとりなど楽しんでいます。頂上まで何度待ったことか…。誰も不平も言わず、おしゃべりと山歩きを楽しむ姿はすてきでした。

・(渚)(友)(沙)(澄)(玄)(英)(檀)(な)(ス)でかくれんぼが始まりました。しっかり「隠れている風」になっていて、数ヶ月前のかくれんぼとは違います。隠れることをくり返し、森の奥へ奥へと進みます。周回道路に先に上がった(檀)がみんなを呼んでいます。(ど)蓮は、笹ヤブに苔戦しながら、周回道路へやっと上がりました。(な)「今度はおばけの探険に行く人は並んで～！」(友)「おばけは、これから行かないの」と言っていますが、みんな一列に並び、でもすぐにぐちゃぐちゃに歩き出し、並んで歩かせたかった(な)は、何度も「並んで～！」と声をかけるのですが(な)も途中であきらめて、おばけ探険が始まりました。

・クリスマス飾りの材料探しに、お散歩に出かけました。ダンボールリュックを(な)にお願いし、カゴは(奏)(空)が持ちました。小さい人が松ぼっくりやどんぐりを入れようとしますがダンボールリュックに届きません。気がついた(な)は、毎回、ざりげなく、かがんで「はい、は～い！」と答えていました。

・もみじ谷、脇の壊れたブランコがある家の前の大きな木の所で、(武)「木、登ってもいい？」少し朽ちていたので(ス)が「うーん」と考えていたら、(武)「自分の責任ね！」

・(く)(大く)は別所温泉へ行ってきました。平日の11時過ぎの温泉街は閑散としていて、足湯は貸し切り状態。(ス)も入り、みんなで丸くなり、しりとりを楽しみました。おにぎりを食べ終った人から、一人づつお金を持って、近くの和菓子屋さんへ、自分の温泉まんじゅうを買いに行きました。(大く)は100円を握ってしっかり35円のおつりをもらってきました。(遥)(武)が「(北向観音の)境内でオペレッタしようね」と言ってたのですが、全員でケイドロをしていたら、別所温泉駅へ向かう時間になっていました。「境内でしたかった」と、(ス)も残念な気持ちで電車に乗りました。電車は貸し切り状態。(ス)「オペレッタしちゃう？」さっと役割が決まり、歌が始まりました。おもしろい電車の旅でした。

お知らせ

- 1/10(火) 三学期の保育開始日です。ぴっぴの森でお待ちしています。
- 一月は内科健診を予定しています。日程が決まりましたら、お知らせいたします。
- 身長計測月です。11月より、えりんこたいそう時の室内を利用して、体重測定も行っています。
- えりんこたいそうは、1/18(水)です。
- おおきいくみの予定　お料理 → 1/19(木)
  お出かけ予定 → 1/30(月)

2016年が終わろうとしています。ぴっぴの皆さまと、心を合わせ、子ども達の成長を分かち合え、たくさん支えられた嬉しい一年でした。ありがとうございました。新しい年が希望を感じられる年となりますように。ご家族皆さまで佳い新年をお迎え下さい。

ぴっぴの森のスケッチブック　1月　コガラ

まっ白な雪の森の中、チラチラと小さな影が雪の上をチョンチョンと動いています。よくみるとそれは、黒と白の配色の小鳥、「コガラ」でした。その名の通り、体長は12cmと小さく、寒さのためか、お腹の羽がふわふわとふくらんでまるで綿ぼうしのようです。こんな小さな体のどこに、この寒い冬をのりこえられる力があるのかと、いつも不思議に思ってしまうのですが…。コガラはなんとも計画的で、長い冬に備えて、秋に採った食物のほとんどを蓄えに回して、それを樹木のすき間などに押しこんで保存しているのです。

よく、キツツキのように幹や枝などをコンコン！とつついているところをみることがありますが、それは冬への蓄えをしているところだったのですね。（朽ち木の中の虫を食べることもあります。）また、コガラは草むらや森の縁によく生えるアザミやヨモギなどの草の種子も好んで食べるため、冬でも残っているこういった草本の種を食べて生き残ることができるのです。

小さな体にたくましい力と知恵をもつコガラ。冬の森の中で今年も元気いっぱいの姿をみせてくれることでしょう。

：菜々兎